

# 伊予高校 図書館だより Library News 2025.2~3



**藍を継ぐ海**  
伊与原新 著 新潮社  
第172回 直木賞 受賞

5編の短編集。5作とも地方が舞台で、鉱石や隕石、ウミガメなどといった自然と絡めた話で面白かったです。長崎が舞台の『祈りの破片』には心を揺さぶられ『藍を継ぐ海』ではウミガメの生態に驚きました。

(102 図書委員)



**人類の祖先に会いに行く**  
グイド・バルブイアーニ 著  
栗原俊秀 訳 河出書房新社

私たちより先に地球に生きた人類の姿を巧みに復元し、彼らの姿を生物学的な視点だけでなく多様な視点で追及しようと試みた本です。様々な裏話も書かれていて、数百万年前の人類に対する多彩な知識を得ることができる本です。

(校長先生)



**ベートーヴェン《第九》の世界**  
小宮正安 著 岩波書店

ヴェートーヴェンが今もなおクラシック音楽を象徴する最高の音楽家の一人として親しまれているのは、数百年前とは思えない革新的な音楽性によるものだと思う。みなさんもぜひ彼の世界を訪れてみてほしい。

(303 吹奏楽部員)



**366日**  
福田果歩 著 光文社

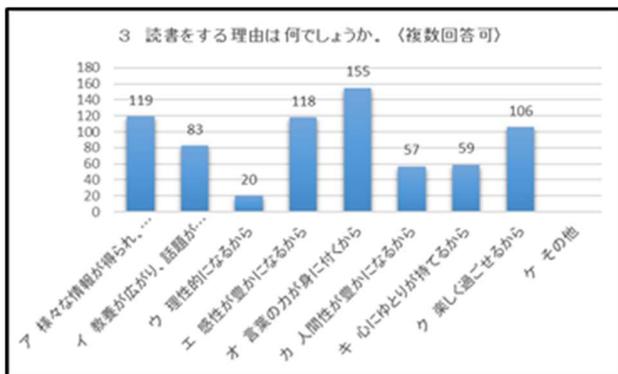
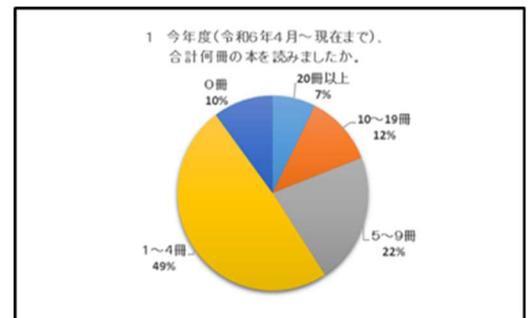
登場人物たちの日常は、まるで自分の人生を見ているようでした。特に印象的だったのは、困難に立ち向かう姿です。人は悩みを抱えながらも、前を向き、生きていく。そんな人間の本質を描いて、深く心に響きました。

(103 図書委員)

## 【読書に関するアンケートの結果・考察】

1月中旬に実施した読書に関するアンケートへのご協力ありがとうございました。主な結果と考察をお知らせします。

今年度の年間読書冊数の平均は8.0冊で、年間読書冊数20冊以上という学校の目標を達成している生徒は7%であった。3分の1の生徒は積極的に読書に取り組んでいるが、3分の2の生徒は読書に積極的に取り組んでいない。また、朝の読書を毎日実施しているが、あまり意欲的に取り組んでいない生徒が26%いる。読書冊数0~4冊の生徒が約6割もいる結果につながっていると思われる。朝の読書で読む本を自分で用意し、この時間を有効に活用してほしい。



読書をする理由を見ると、ほとんどの生徒が読書に意義を感じていることが分かる。半数以上の生徒が「言葉の力が身に付くから」と答えており、「様々な情報が得られ、考えが広く深くなるから」、「感性が豊かになるから」、「楽しく過ごせるから」と答えた生徒が3分の1以上いた。読書の意義を再認識し、積極的に読書に取り組んでほしい。

デジタルブックを利用したことがある生徒が過半数おり、生徒の間でも普及してきていることが分かった。今後もデジタルブックをすることで読書量が増えることを期待する。一方、紙の本ならではの良さもあることは、頭に入れておいてほしい。